

鉄道

わずか40日で軌道工事へ引き渡す

○山陽新幹線・尼崎西宮地区



床版落下

会員9社の精鋭たちが尼崎～西宮間に集結、不眠不休の復旧活動を行う

被災状況が伝えられるや否や、会員各社は直ちに危険箇所の排除、立ち入り禁止区域の処置を行い、JR西日本の指示・指導のもと復旧作業に取りかかりました。容赦無く群発する余震の中、2次灾害、3次灾害の恐怖と戦いながら落橋した床版の下でのジャッキアップ作業が続いて、文字どおり決死的な作業でした。通常の施工であれば平均5か月は要するところ、着手から最大45日、最短32日(平均40日)で軌道工事への引き渡しを完了しました。もちろん、関係各管理者(道路、河川等)の支援および地元住民の忍耐強い協力、また気象条件にも恵まれた事、加えて緊急用として利用できる側道の存在無しては不可能な記録ではあります、会員9社の方々の不眠不休の懸命な復旧活動によって達成された、まさに驚異的な記録と言えるでしょう。

山陽新幹線各所で落橋大動脈が寸断

阪神・淡路大震災により、阪神間の鉄道網を形成する23路線のうち18路線が被災、18路線3,553kmのうち



軌道工事引き渡し

通行不能となりました。

我が国が世界に誇る新幹線も例外ではなく、特に新大阪～六甲トンネル間の16.25kmに被害が集中しました。これら大動脈の寸断により鉄道輸送機能は完全にマヒ状態となりました。



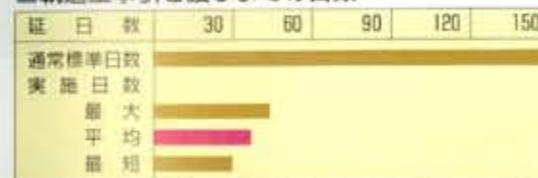
機械による復旧状況



床版落下

■労務		■機械			
一日最大	合計	一日最大	合計		
職員	264人	14,757人	運搬車両	157台	3,470台
作業員	3,737人	90,831人	クレーン車	232台	6,930台
運転手	319人	11,350人	高所作業車	100台	1,995台
保安要員	338人	14,939人	掘削機械	76台	2,309台
合計	4,658人	131,877人	破碎機械	42台	467台
			その他の機械	275台	3,807台
			合計	882台	29,778台

軌道工事引き渡しまでの日数



(会員9社による被災から軌道引渡しまでのアンケート調査)

一方、軌道工事への引き渡しから4月8日山陽新幹線開通までは、運輸省等の厳しい基準をクリアしなければならず、支柱に鉄板を巻く補強工事等数々の難工事が待ち受けっていました。そして、“より安全な新幹線の復活”が求められる中、一日も早い開通を望む国民の期待に応えるためにも、万全を期して復旧活動が継続されました。



復旧状況



復旧完了

努力が実った！復活に向けて大動脈が始動

今回、未曾有の衝撃的大震災は、東西の交通を分断し、経済や国民生活に多大な影響を及ぼしました。しかしながら我が国の大動脈である新幹線には開業以来、旅客灾害ゼロという安全神話があり、より健全で、より安全な施設として早急に復旧さ

せることは、建設業として国民の希望をつなぐ社会的使命でもありました。

復旧担当各位の献身的な勇気と努力によって無事開通を迎えた今、さらなる安全神話の継承、新幹線の完全復旧に向けて大動脈が始動します。



試運転車